

軌條ハ府内線及東萊線共三〇区ヲ使用シ軌間ハ一〇六七米ニシテ、電氣方式ハ單線架空式、電力ハ自社發電所ヨリ供給ス。

車輛ハ四四輛(外ニ貨車一輛、撒水車一輛)ヲ有シ、運轉回數ハ一日平均府内線二六三回、東萊線五三回ナリ。乗車賃ハ府内線ヲ三區、東萊線ヲ三區ニ分チ一區各五錢トス。

次デ昭和九年十二月十三日釜山東萊間乗合自動車、更ニ昭和十年八月十四日府内乗合自動車營業ノ免許ヲ受ケ區間ヲ分チ電車ト無料乗繼ノ利便ヲ計リツツアリ。

三、平壤電氣軌道

平壤府營ノ本軌道ハ開業復線六籽、單線七籽ニシテ軌間ハ一〇六七米ナリ、軌條ハ全線三〇区ヲ使用シ、電氣方式ハ單線架空式ニシテ電力ハ朝鮮電氣興業會社ヨリ供給ヲ受ケ。

車輛ハ四〇人乗電車三〇輛、貨車三輛、撒水車一輛ヲ有シ其ノ運轉回數ハ市内一日平均四〇〇回、郊外二〇〇回ニシテ乗車賃ハ府内ヲ五錢均一トシ、大同江對岸ニ至ル船橋里及寺洞線ヲ二區ニ分チ、一區各五錢トス。次デ昭和九年三月七日府内乗合自動車營業ノ免許ヲ受ケ電車トノ乗繼ハ一回ヲ限リ無料乗換券ヲ發行シ利便ヲ計リツツアリ。

四、咸平輕油軌道

本軌道ハ昭和二年一月運輸營業ヲ開始セル輕油軌道ニシテ開業區間六籽一分、軌間一〇六七米、軌條ハ大體一〇区ヲ使用シ、小數ノ一二区及一五区ヲ混用ス、車輛ハ瓦斯倫機關車一輛、輕油動車三輛内一輛ハ一匙積輕油貨車)ノ外ニ四人乗客車三輛(二匙積手荷物車二輛)ト七匙積貨車四輛ヲ有シ、其ノ運轉回數ハ一日九往復ナリ、乗車賃ハ全線ヲ三區ニ分チ、全線ヲ通ジ二五錢、貨物ハ十級品小口扱百区ニ付十錢、匙及車扱一匙ニ付一圓ナリ。外ニ奥地トノ乗合自動車及貨物自動車營業ヲ爲ス。

五、京城軌道

本軌道ハ當初京城郊外軌道トシテ往十里、蘆島間ノ免許ヲ受ケ昭和五年十一月運輸營業ヲ開始セル軌間一〇六七米ノ輕油軌道ナリシガ、其後京城軌道會社ガ之ヲ讓受ケ、尙往十里、東大門間及上後原、華陽間並ニ華陽廣壯間ノ建設ヲ了シ、現在一三籽三分ヲ營業シ、昭和十年六月二十日動力ニ電氣ヲ追加シ今日ニ及ベリ、軌條ハ大體二二区ヲ使用シ、小數ノ二一区ヲ混用ス、車輛ハ瓦斯倫機關車八輛、輕油動車十輛(六〇人乗客車四輛、五匙積有蓋及無蓋車三十八輛、塵埃及尿管車三九輛)ヲ有シ、其ノ運轉回數兩端驛午前五時ヨリ午後十二時迄三十分、毎ニ發車シ賃金ハ區間別ニシテ五錢乃至一五錢トス。

六、手押軌道

倭館軌道一箇所ノミニシテ單線軌間ハ〇六一〇米、貨物ノミヲ取扱ヒ、車輛ハ台車ニシテ一匙積ナリ。

四 營業成績

軌道ノ昭和九年度ニ於ケル營業成績ハ旅客人員七一、四〇八千餘人、貨物噸數二一、八千餘ニシテ收入三、四七七千圓、營業費二、八五五千圓、差引益金六二、一千圓ニ上リ、營業收入ニ對スル支出ノ割合ハ八割二分ニ當レリ。

各軌道ノ最近五箇年間運輸成績左表ノ如シ。

運輸成績累年表

軌道名	年 度	營業年度末	旅客人員	貨物噸數	收 入	支 出	益 金	平均一日收入
京城電氣軌道	昭和五年度	四〇、四九三	四〇、四九三	五、二五五	一、九七〇、八九七	一、三三〇、四七九	五七〇、四一八	一五、八分
	同 六年度	三九、九	三八、〇三三	一六、七七一	一、八〇七、三二七	一、三三〇、四七九	五七〇、四一八	一四、一
	同 七年度	三九、七	三七、七九〇	一、四四三	一、七六八、九九八	一、三三〇、四七九	五七〇、四一八	一四、〇七
	同 八年度	三九、五	四六、六三三	一、八五五	二、一七三、九九〇	一、七九〇、五八八	五七〇、四一八	一四、〇七
	同 九年度	三九、七	四六、六三三	一、八五五	二、一七三、九九〇	一、七九〇、五八八	五七〇、四一八	一四、〇七
朝鮮瓦斯電氣會社 (釜山)	昭和五年度	一、九三三	七、三二、七六八	—	四三三、六四〇	三三六、六六七	九六、九七三	六〇、五分
	同 六年度	一、九三三	六、八三、三九九	—	四〇九、四四三	三〇四、三二六	一〇五、一一七	五八、一分
	同 七年度	一、九三三	六、八三、三九九	—	四〇九、四四三	三〇四、三二六	一〇五、一七六	五八、一分
	同 八年度	二〇、二	六、六三、〇七〇	—	三九〇、四三六	三三六、六六七	五三、七六九	五八、一分
	同 九年度	二〇、二	六、六三、〇七〇	—	三九〇、四三六	三三六、六六七	五三、七六九	五八、一分

平壤府電氣軌道	昭和五年度	二、三	四、三〇、〇〇〇	二、三三三	二〇六、四〇〇	一五三、八八九	五二、五一一	四、九分
	同 六年度	二、三	四、三〇、〇〇〇	二、三三三	二〇六、四〇〇	一五三、八八九	五二、五一一	四、九分
	同 七年度	二、三	四、三〇、〇〇〇	二、三三三	二〇六、四〇〇	一五三、八八九	五二、五一一	四、九分
	同 八年度	二、三	四、三〇、〇〇〇	二、三三三	二〇六、四〇〇	一五三、八八九	五二、五一一	四、九分
	同 九年度	二、三	四、三〇、〇〇〇	二、三三三	二〇六、四〇〇	一五三、八八九	五二、五一一	四、九分
咸平軌道	昭和五年度	六、一	二、七、三三七	四、四九九	二六、三三七	一九、六九〇	七、六八〇	二、八分
	同 六年度	六、一	二、七、三三七	四、四九九	二六、三三七	一九、六九〇	七、六八〇	二、八分
	同 七年度	六、一	二、七、三三七	四、四九九	二六、三三七	一九、六九〇	七、六八〇	二、八分
	同 八年度	六、一	二、七、三三七	四、四九九	二六、三三七	一九、六九〇	七、六八〇	二、八分
	同 九年度	六、一	二、七、三三七	四、四九九	二六、三三七	一九、六九〇	七、六八〇	二、八分
倭館軌道	昭和五年度	一、一	一、六八三	—	七四三	五八四	一七六	一、八分
	同 六年度	一、一	一、六八三	—	七四三	五八四	一七六	一、八分
	同 七年度	一、一	一、六八三	—	七四三	五八四	一七六	一、八分
	同 八年度	一、一	一、六八三	—	七四三	五八四	一七六	一、八分
	同 九年度	一、一	一、六八三	—	七四三	五八四	一七六	一、八分
生氣嶺軌道 (咸北) (五年度營業廢止)	昭和五年度	—	—	—	—	—	—	—
	昭和五年度	—	—	—	—	—	—	—
濟州島循還軌道 (六年度營業廢止)	昭和五年度	—	—	—	—	—	—	—
	昭和五年度	—	—	—	—	—	—	—

軌道名	年 度	營業料	旅客人員	貨物噸數	收 入	支 出	益 金	平均日收入
京城軌道株式會社	昭和六年度	7,300,000	3,351,818	3,000,000	11,100,000	11,300,000	△	1,200,000
	昭和七年度	7,300,000	3,351,818	3,000,000	11,100,000	11,300,000	△	1,200,000
	昭和八年度	9,300,000	5,099,356	3,200,000	16,750,000	16,850,000	△	1,800,000
	昭和九年度	11,300,000	7,100,000	3,300,000	21,000,000	21,100,000	△	2,300,000
	同 九年度	11,300,000	7,100,000	3,300,000	21,000,000	21,100,000	△	2,300,000
合 計	昭和五年度	10,100,000	4,700,000	4,200,000	17,000,000	17,200,000	△	1,800,000
	同 六年度	6,900,000	3,000,000	2,800,000	10,000,000	10,200,000	△	1,200,000
	同 七年度	7,300,000	3,351,818	3,000,000	11,100,000	11,300,000	△	1,200,000
	同 八年度	9,300,000	5,099,356	3,200,000	16,750,000	16,850,000	△	1,800,000
	同 九年度	11,300,000	7,100,000	3,300,000	21,000,000	21,100,000	△	2,300,000

備考 朝鮮瓦斯電氣株式會社ノ計數ニハ私鐵鐵道ノ取扱ヲ受クル釜山鐵東兼間九軒五分ヲ含ム。

第二章 陸運(自動車運送)

法 規 昭和七年七月三十日勅令第二〇二號ヲ以テ鐵道局官制中「私設鐵道ノ監督」ヲ「私設鐵道其ノ他ノ陸運ノ監督ニ關スル事務ヲ掌ル」ニ改メラレ從來ノ鐵道軌道ノ外自動車運送、索道運送其ノ他ノ陸上運送事業ノ監督事務ヲ併セ處理スルコトトナリ、同時ニ朝鮮總督府訓令第五十三號ヲ以テ從來各道ニ於テ處理シ來レル自動車運送營業ノ許可其ノ他ノ處分ノ中重要ナルモノニ付テハ朝鮮總督ニ稟伺ノ上之ヲ處理スルコトトシ自動車運送事業自體ノ統制ヲ圖ルト共ニ等シク陸上運輸機關タル鐵道軌道ト自動車運送トノ協調連絡並ニ此等ノ統制ヲ圖ルコトトセリ。

而シテ此等各事業ノ統制ヲ本格的ニ行フニハ先ヅ準據法令ノ整備ヲ急務ト認メ昭和八年九月自動車交通事業法ヲ内容トスル朝鮮自動車交通事業令ヲ同九年十二月同令施行規則以下各種ノ附屬法規ヲ公布シ、十年四月一日ヨリ何レモ施行セリ、其概要次ノ如シ。

- 一、 昭和十年四月一日 總督府令第二百一十一號ニ依リ昭和八年制定セラレタル朝鮮自動車交通事業令施行サル。
- 要旨 本令ハ朝鮮ニ於ケル自動車ニ依ル交通事業ノ統制並ニ助長ヲ期スル爲ニ制定セラレタルモノナリ。
- 一、 同 日 總督府令第二百二十二號ヲ以テ昭和九年制定セラレタル朝鮮自動車交通事業令施行規則施行サル。
- 要旨 本規則ハ朝鮮自動車交通事業令施行ニ必要ナル一般的手續ヲ規定ス。
- 一、 同 日 總督府令第二百二十三號ヲ以テ昭和九年制定セラレタル朝鮮自動車交通事業令職權委任規定施行サル。
- 要旨 事業令ニ規定スル朝鮮總督ノ權限ノ一部ヲ鐵道局長及道知事ニ分任ス。
- 一、 同 日 總督府令第二百二十四號ヲ以テ昭和九年制定セラレタル朝鮮自動車運輸事業規程施行サル。
- 要旨 路線ノ幅員ニ應ジテ自動車ニ一定ノ旅客座席定員ヲ有セシメ又事業ノ狀態ニ應ジ自動車ノ使用車輛數ヲ定ム。
- 一、 同 日 總督府令第二百五號ヲ以テ昭和九年制定セラレタル朝鮮自動車運輸事業會計規程施行サル。
- 要旨 運輸上ノ諸收入ノ範圍、興業及營業ニ關聯スル費用ノ分割他業ヲ併營スル場合ニ於ケル興業費、營業

費、營業收入ノ分割方法及車輛價格ノ銷却等ニ關シ規定ス。

一、同 日 總督府令第二百二十六號ヲ以テ昭和九年制定セラレタル朝鮮自動車運輸規程施行サ
ル。

要旨 鐵道營業法ノ鐵道運輸規程ニ該當スルモノナリ。
運賃、料金、運送條件ノ公告、自動車従事員ノ制服着用、營業所、停留所ニ公示スベキ事項、車輛ノ検査、旅客ノ乗車
ヲ拒絶シ得ル場合、旅客ノ遵守事項、車内持込荷物ノ制限、物品運送ノ義務等自動車ニ依ル運輸營業上ノ事項
ヲ規定ス。

一、同 日 總督府令第二百二十七號ヲ以テ昭和九年制定セラレタル朝鮮旅客自動車設備規程施
行サル。

要旨 自動車運輸事業用自動車ノ構造設備ニ關スル規定ニシテ車輛ハ低床式構造ノモノヲ使用スルコト
車輛ノ高さ、旅客座席定員ノ幅員、立席ヲ設ケ得ル場合等ヲ規定ス。

一、同 日 總督府令第二百二十八號ヲ以テ昭和九年制定セラレタル朝鮮自動車運輸事業自動車
登録規程施行サル。

要旨 自動車運輸事業中株式會社ノ經營スルモノニ在リテハ一車毎ニ一定様式ニ依リ登録ヲ受クルコト
ヲ要ス、登録事務ハ道知事ニ於テ管掌ス。

一、同 日 總督府令第二百二十九號ヲ以テ昭和九年制定セラレタル朝鮮自動車構造規程施行サ
ル。

要旨 自動車道ヲ一般自動車道、専用自動車道ノ二種ニ區別シ各其ノ構造ニ關スル規定ニシテ、自動車道ノ
幅員、路面、勾配、曲線半徑、路面ノ鋪裝、警戒標信號機、照明裝置他ノ交通施設トノ平面交叉方法等ニ關シ規定ス。

一、同 日 總督府令第三百三十號ヲ以テ昭和九年制定セラレタル朝鮮自動車運送事業規則施行
サル。

要旨 自動車運輸事業以外ノ自動車ニ依ル運送事業ニ關スル準據規定ニシテ、運送事業ハ一般的ニハ道知
事ニ於テ免許其ノ他ノ處分ヲナシ一定ノ路線ニ依ル自動車運送事業ハ鐵道局長ニ於テ免許其ノ他ノ處分
ヲナスベキモノトス。

一、昭和十年四月十八日 總督府訓令第十五號ヲ以テ朝鮮自動車交通事業令取扱手續ヲ定メ昭和七年總督
府訓令第五十三號ハ之ヲ廢止ス。

要旨 自動車交通事業令施行規則ニ依リ道知事ノ作成スベキ調査書ノ記載事項、總督ニ稟伺シ又ハ其ノ指
揮ヲ受クベキ事項、鐵道局長ニ報告スベキ事項等ヲ規定ス。

自動車營業路線及營業者數

(昭和十年三月三十一日現在)

道名	營業路線ノ許可里程		營業者數	
	乘	貨	客	貨
京畿道	三七四六.七	二、一七五.四	三五名	二名
忠清北道	一、一七三.〇	七、八四.八	五名	七名
忠清南道	一、四九〇.一	一、〇九.七	一四名	一三名
全羅北道	一、七九一.三	一、八四八.〇	一六名	一九名
全羅南道	三、〇四一.三	三、〇四一.三	三七名	五七名
慶尙北道	二、三三六.三	一、九八〇.五	八名	七名
慶尙南道	二、八五七.一	一、八八〇.一	三三名	三三名
合計			八二名	二四名

道名別	營業路線ノ許可程		營業者數	
	乘	貨	客	貨
黃海道	二六八八二	三六三三五	(乘) 一四	(貨) 一三
平安南道	二〇二一四	二六二五〇	一五	(不定形) 二〇
平安北道	二九八九六	二九九七五	二二	(貨) 一八
江原道	三三八六二	二六六六二	一五	一六
咸鏡南道	一三七九四	一四三三〇	一九	一〇
咸鏡北道	六四〇九	六四七一	一一	一一
合計	二九四九一二	二六七四一一	三四	二七五

自動車營業者數累年表

年別	營業路線ノ許可程		營業者數	
	乘	貨	客	貨
昭和四年	二六〇六一	一八〇二〇	旅	物
昭和五年	二六八八〇	二二六四〇	客 五三九	七五九
昭和六年	二八〇五七	二六四七六	客 五三三	三三八
昭和七年	二八二七三	二六四九二	客 四九八	四三〇
昭和八年	二九〇三三	二六三五六	不定期	四八二
昭和九年	二九三二五	二七四二八	不定期	四〇九
昭和十年	二九四九二	二六七四二	不定期	四六六

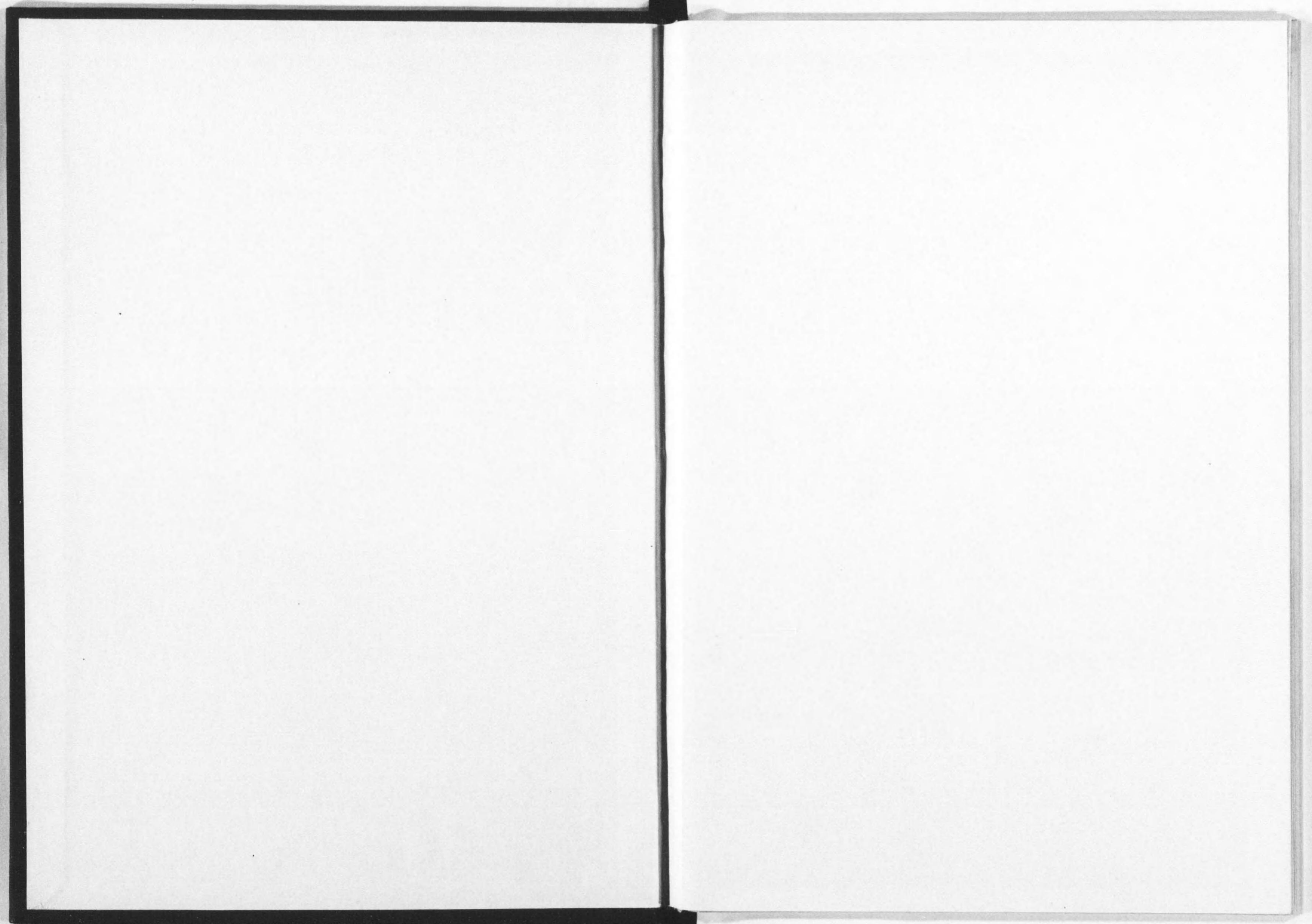
昭和十年十二月十五日印刷
 昭和十年十二月二十日發行

朝鮮總督府鐵道局

京城府蓬萊町三丁目六二・三番地

印刷所 朝鮮印刷株式會社

EN-95



終